

Beyondコロナ

歯科総合診療科 尾崎紀子

新型コロナウイルスの感染が中国で確認されてから2年以上経過しました。2年前までは普通に友人と会ったり実家にもよく帰省していましたが、今はそのことの有難さ、友人や家族の大切さを感じています。

新型コロナウイルスが日本でも流行した当初、私は新潟大学の学生で新潟大学医歯学総合病院で臨床実習をしていました。病院では、入り口での体温測定や手指消毒、診療前の新型コロナウイルス感染対策に関する問診の実施などの変化がありました。ただ、感染防御（マスク、ゴーグル等）については流行前と後であまり変化がなかったと思い、常日頃から標準予防策が徹底していたことを実感しました。これは、様々な疾患を持つ患者様が多い大学病院だからこそであり、学生のうちから感染防御を自然と身に付けられる環境で学べることを有難く思いました。

現在、私は新潟大学医歯学総合病院の歯科総合

診療科で研修を行っています。こちらで研修をさせていただくことが決まった時は新潟大学の学生であった頃に経験した臨床実習の延長なのかなと思っていました。しかし実際は違いました。診療時間が短くなり、時間を意識して診療するようになりました。また、学生の頃は先生に手助けしていただいた際に心のどこかで、「最初だし完璧にできないのは仕方がない」と思っていました。しかし研修医になってから先生に手助けしていただいた際には、「なんでできないんだろう。悔しい。早く先生方のように診療できるようになりたい。」と思うようになりました。自分の中で学生と研修医では診療に対する意識が変わったと感じました。

まだ臨床経験も浅く、診療をしていると本当にたくさんの疑問や迷いが生じます。臨床は教科書通りにはいかないことも多く、経験豊富な先生方に相談するのですが、いつも丁寧に対応してください。半年以上研修して思うことは、卒



研修歯科医同期と藤井教授
写真撮影時のみマスクを外しました

後1年目でまだまだ学ぶことの多い私には、着実に、そして幅広い症例を学べる歯科総合診療科での研修が合っていたということです。研修期間中に学んだ知識と技術は土台となり今後の歯科医師生活でもきっと役立つものになると思います。そのため残りの研修期間でたくさんのことを吸収できるよう精一杯頑張りたいと思います。

4月からは大阪で就職させていただくことになりましたが、病院見学や面接はオンライン上でさせていただきました。就職先を探していた期間は新型コロナウイルス感染者が急増している時で、

新潟大学医歯学総合病院では職員の県外移動を制限していたためです。私が学生であった頃も面接や試験をオンラインで行っている同期が多くいました。

今後も新型コロナウイルス蔓延下で研修先を探す状況が続くかもしれませんが、オンラインなどの対応をしてくださる医院もありますので、学生の皆さんには興味のある医院、就職したいと思っている医院があるのであれば諦めずに頑張ってもらいたいと思います。



Beyondコロナ

歯科研修医 高山 玲 奈

新潟大学医歯学総合病院義歯診療科での研修を終え、現在、私は協力施設であるおざき歯科医院で研修しています。「コロナ禍」という、新潟大学歯学部に入學した当初は予想だにしていなかった事態を迎え、現在に至るまでのここ数年間は変化の多い数年間だったように思います。臨機応変な対応を余儀なく求められ、自身で考えて選択する大切さについてつくづく実感することとなりました。世間ではコロナ禍ということもあり、学生生活において様々な面で影を落とし、例にもれず新潟大学歯学部においても影響が及んでいることかと思えます。今回歯学部ニュースのページを執筆させていただき機会をいただき、今まで就職されたばかりの方のお話は初めてだとお聞きしましたので、昨年を振り返って想うことや現在の状況についてお話ししたいと思います。このページが皆さんにとって何かよい刺激になれば幸いです。

新型コロナウイルスの流行によって診療時の感染対策については対象が目に見えないものであるため、今までの感染対策について見直すと共に、気を引き締めて対応しておりました。

昨年は診療制限されていた時期があり、例年通りにはいかない状況でした。感染者も再び増加している時期だったので県外への移動に対して慎重にならざるを得ず、例年と比較した際に困難な点が見受けられたのは事実です。ただ、研修先の方々もオンラインで見学・面接するなど臨機応変に対応してくださるところが多く、私の場合は、学生時分からお世話になった先生方がおり、慣れ親しんだ環境で学べるという安心感があったこと、何より臨床実習中は学びの機会に恵まれ、環境も充実していたため新潟大学病院で研修することは決めておりました。義歯に興味があったこともあり、研修先を選ぶのに迷いは少なかったというのが正直なところです。

その後、歯科医師として従事する日々の中で沢山の課題と向き合うこととなりました。義歯診療科での研修中、自身の知識と技術不足を目の当たりにして落ち込むこともありましたが、努力した分だけ診療に還元されていき、悩む時間も勿体ないくらいに充実した研修を送らせていただきました。患者さんから感謝のお言葉をいただいた時には、本当に頑張っただけよかったと非常にやりがいを感じました。その記憶は今でも思い出して励みにしています。

現在勉強させていただいている研修先の地域は口腔内の環境も厳しい方が少なくありません。なかなか思うようにいかないこともありますが、幅広い年齢層の治療を経験でき、指導して下さる先生方のサポートの元、私が描く理想像に向かって目下奮闘しております。

研修終了後は別の歯科医院にはなりますが大阪で就職させていただくことになりました。やはり私が就職活動をしていた時も感染者数が1日平均20~30名程度いましたが、自身で出来る対策を行い、覚悟をもって後悔のないよう行動しました。オンラインで見学・面接を行っている医院もあり、自身の責任は自身でしか負えないと思いますので、それぞれが自ら考え選択していくのがよいと思います。



仕事納めの日にいただいたお菓子

Beyondコロナ

口腔生命福祉学科14期生 中村 夢衣

初めまして。新潟大学医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期課程1年中村夢衣と申します。昨年度までは口腔生命福祉学科4年次として臨床実習等に励んでおりました。今現在は社会人大学院生という立場で、病院歯科衛生士として勤務しながら学んでおります。今回の執筆にあたり、昨年度のコロナ禍における臨床実習・福祉実習、そして就職活動に関して、私の経験を述べさせていただきます。と思います。

昨年度の臨床実習はコロナ禍の最中でのスタートで、本来であれば4月から始まる予定でしたが感染防止の観点から課題レポートなどの代替実習から始まりました。病院実習が再開したのは7月末頃からで、実習することができなかった診療科もありました。診療科によっては、夏季休暇中に希望者は見学を受け入れるなど対応していただいた科もありましたが、就職活動や国家試験勉強などでその時間を取ることが難しかった学生も少なくはないかと思います。このようにマイナスな点が多い実習でしたが、コロナ禍だからこそ感染予防対策をしっかりと行わなければならなかったため、標準予防策の徹底や、清潔・不潔の区別を現場において学ぶことができたのは経験として非常に大きく、それが今の業務で実践できていると思います。福祉実習については、実習時期、実習場所によっては実習ができた学生とそうでない学生がいました。私は代替実習でしたが、代替実習でも実習担当の先生との週1回のディスカッションを通して、学べることは多くありました。このようにコロナ禍においても、できる限り実習ができるようにとご尽力くださった先生方にはとても感謝しています。

就職活動において、まず志望先の病院・診療所を見学するところから始まるかと思いますが、私

の場合、見学はせずに採用試験を受けました。もちろん病院側からはいずれは見学も可能になるというお話はいただいていたのですが、臨床実習中であり、県外への移動は避けるようにとのことで、見学することができませんでした。幸い、志望先に口腔生命福祉学科卒業生の方がいらっしゃったため、先生を通じて連絡を取り、そこで業務内容などの情報を得ることはできましたが、今就職してみても思うのはやはり百聞は一見に如かずという言葉通りで、見学はするべきであったと感じています。どういう業務を行っているのか、主にどのような疾患を治療対象としているか、ということも重要ですが、職場の雰囲気を見ることも非常に大事かと思えます。また、交通の便など、職場の周りの環境も知ることも非常に重要であったと感じています。

簡単ではありましたが、私の学生時代の経験を述べさせていただきました。今後、就職活動をする学生の方の参考になれば幸いです。この度はこのような執筆の機会をいただき、ありがとうございました。



勤務先の入院患者に対し口腔ケアを行っている様子

Beyondコロナ ～コロナ禍における臨床実習、国家試験、 就職活動について～

新潟市役所 鈴木志歩

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた印象があります。当時私は口腔生命福祉学科4年生で、臨床実習の開始が見送られたまま4月がスタートしました。4～5月は緊急事態宣言が発出され、歯科臨床実習に参加することは出来ませんでした。毎日各科の課題に取り組む日々が続き、不安を感じていたことが印象に残っています。課題は各科の分野に関するものが多く、自分の苦手な項目を洗い出し、理解し直す良い機会になりました。6～7月は福祉臨床実習でしたが、何う予定だった外部施設から非対面での実習をするよう依頼があり、結果的に課題に取り組む形となりました。福祉現場の実際をみることは叶いませんでしたが、課題によって不足していた知識が明瞭となり、国家試験の勉強に身が入りやすくなりました。9月には歯科臨床実習が再開し、12月までの4か月間は歯科診療の現場で学ぶことが出来ました。例年に比べて実習期間は短かったものの、その分吸収しようと積極的に参加できたと感じています。

臨床実習に参加出来なかった4～7月は勉強に力を入れたことで、国家試験合格への大きな一歩になりました。私は、国家試験問題解説集とセットの資料本のみを用いて勉強しました。口腔生命福祉学科の先輩方の多くが利用していたこと、問題を解いた後に不足知識を補うことが2冊間で行いやすいと感じ選択しました。実際に問題を解いてみると、掲載されていない重要ポイントもあります。そういったものを直接、資料本に書き込むことで、1冊見ればポイントをおさらい出来るように工夫しました。早い段階で自分に合う勉強法を実践出来たことが合格に繋がった理由ではないかと思います。

就職活動もコロナ禍の影響を大いに受けました。見学等はあまり出来ず、ホームページを見る、パンフレットを取り寄せる、キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィスにて進路相談を行うなどしました。特に就職支援の相談員さんにお世話になり、気持ちの整理や就職に向けて行すべきことを細かく相談することが出来ました。現在進路に悩む方は、ぜひ利用してほしいです。また、私は行政職志望であったことから、各自治体の試験を受けました。コロナ禍で試験日がずれる、会場や試験方式が変わるなどの変更が多くありましたが、試験で問われる内容は同じでした。試験を受けてみて、教養科目や専門科目の勉強を地道に続けることが大切であると感じました。面接では先生方に協力していただき、自信を持てるまで何度も練習を重ねました。今振り返ってみると、毎日の勉強やリサーチ、下準備の積み重ねが本当に重要であったと感じます。

今後も、まだまだコロナ禍に影響を受けることが予想されますが、私の経験が少しでも参考になれば幸いです。みなさんが充実した学生生活を送られることを願っています。



面接相談対応業務を行っている様子